

令和5年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	社会	学年	1	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会 地理、新しい社会 歴史	出版社名	東京書籍
------	-------------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容	知	思	主			
一 学 期	4	第1編 世界と日本の姿	1 地球の姿を見てみよう 2 世界のさまざまな国々	◎	◎	◎	授業の概要 1年生の社会では、地理的分野と歴史的分野を学びます。地理的分野では、地球儀と地図の特徴や使い方、世界から見た日本の位置や領域、各気候帯での人々の暮らしと、世界の諸地域について各州ごとに学習していきます。歴史的分野では、わが国の歴史を中心に人類の誕生から室町時代までを学習します。教科書だけではなく地図や資料集も使って世界の諸地域の特色や、歴史の大きな流れを身に付けます。		
		第1章 世界の姿	3 地球上の位置を表そう 4 地球儀と世界地図を比べてみよう	◎	◎	◎			
		第2章 日本の姿	1 日本の位置 2 日本と世界との時差	◎	◎	◎			
			3 日本の領域の特色 4 北方領土・竹島と尖閣諸島	◎	◎	◎			
	5	中間考査(5/16～5/17)	5 日本の都道府県	◎	◎	◎			
		第2編 世界のさまざまな地域	1 雪と氷の中で暮らす人々 2 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 3 温暖な土地に暮らす人々	◎	◎	◎			
	6	第1章 世界各地の人々の生活と環境	4 乾燥した土地に暮らす人々 5 常夏の島で暮らす人々 6 標高の高い土地に暮らす人々	◎	◎	◎			
		第2章 古代までの日本	7 世界に見られるさまざまな気候 8 人々の生活に根づく宗教	◎	◎	◎			
		第1節 世界の古代文明と宗教のおこり	1 人類の出現と進化 2 古代文明のおこりと発展 3 中国文明の発展	◎	◎	◎			
			4 ギリシャ・ローマの文明 5 宗教のおこりと三大宗教	◎	◎	◎			
	7	期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)		◎	◎	◎			
		第1章 歴史へのとびら 第1節 歴史をとらえる見方・考え方	1 時期や年代の表し方 2 歴史の流れのとらえ方 3 時代や特色のとらえ方	◎	◎	◎			
第2節 身近な地域の歴史		1 テーマを決めて調査・考察しよう 2 まとめと発表をしよう	◎	◎	◎				
夏季休業日(7/21～8/24)									
二 学 期	8	第2節 日本列島の誕生と大陸との交流	1 旧石器時代と縄文時代の暮らし 2 弥生時代の暮らしと邪馬台国 3 大王の時代	◎	◎	◎	・地図と地球儀の特色を理解するとともに、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・世界の諸地域について、その地形や気候、産業や文化の特色を理解するとともに、持続可能な社会の実現を視野に、それぞれの地域で顕在化している地球的課題について主体的に追求しようとする。 ・古代の日本の国家形成および文化の形成について、東アジアとの交流や東アジア情勢の変化と関連付けて理解し、それぞれの時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・中世の日本について、武家政治の展開を、東アジアとの交流や産業の発達、民衆の成長と関連付けて理解するとともに、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、そこで見られる課題について主体的に追求しようとしている。		
		第2章 世界の諸地域	1 アジア州をながめて 2 アジアニESの成長	◎	◎	◎			
		第1節 アジア州-急速な都市の成長と変化-	3 巨大な人口を支える中国 4 都市化が進む東南アジア	◎	◎	◎			
			5 急速に成長する南アジア 6 資源が豊富な西アジア・中央アジア	◎	◎	◎			
	9	第2節 ヨーロッパ州-国どうしの統合による変化-	1 ヨーロッパ州をながめて 2 ヨーロッパ統合の動き	◎	◎	◎			
			3 持続可能な社会に向けて 4 EUがかかえる課題	◎	◎	◎			
		中間考査(10/5～10/6)		◎	◎	◎			
		第3節 アフリカ州-国際的な支援からの自立に向けて-	1 アフリカ州をながめて 2 アフリカの産業と新たな開発	◎	◎	◎			
	10		3 発展に向けた課題	◎	◎	◎			
		第3節 古代国家の歩みと東アジア世界	1 聖徳太子の政治改革 2 東アジアの緊張と律令国家への歩み 3 律令国家の成立と平城京	◎	◎	◎			
			4 奈良時代の人々の暮らし 5 天平文化 6 平安京と律令国家の変化	◎	◎	◎			
			7 摂関政治の時代 8 国風文化	◎	◎	◎			
11	第4節 北アメリカ州-多くの人々をひきつける地域-	1 北アメリカ州をながめて 2 巨大な農業生産力と移民	◎	◎	◎				
		3 巨大な工業生産力 4 新しい産業と生活文化	◎	◎	◎				
	期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎	◎				
	第5節 南アメリカ州-開発の進展と環境問題-	1 南アメリカ州をながめて 2 自然環境と共生する生活 3 開発の進行と影響	◎	◎	◎				
12	第6節 オセアニア州-強まるアジアとの結びつき-	1 オセアニア州をながめて 2 貿易を通じた他地域とのつながり 3 人々による他地域とのつながり	◎	◎	◎				
	冬季休業日(12/21～1/8)								
三 学 期	1	第3章 中世の日本	1 武士の成長 2 院政から武士の政権へ 3 鎌倉幕府の成立と執権政治	◎	◎	◎	学習の状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」「授業態度」「取り組み方」「定期考査」「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の平均とし、5段階法でも評定します。		
		第1節 武士の政権の成立	3 鎌倉幕府の成立と執権政治 4 武士と民衆の生活	◎	◎	◎			
			5 鎌倉時代の文化と宗教	◎	◎	◎			
		第2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	1 モンゴル帝国とユーラシア世界 2 モンゴルの襲来 3 南北朝の動乱と室町幕府	◎	◎	◎			
	2		3 南北朝の動乱と室町幕府 4 東アジアとの交流 5 産業の発達と民衆の生活	◎	◎	◎			
			6 応仁の乱と戦国大名 7 室町文化とその広がり	◎	◎	◎			
		学年末考査3年(2/22～2/29) 学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎	◎			
		第3編 日本のさまざまな地域	1 調査の準備	◎	◎	◎			
	3	第1章 地域調査の手法	2 野外観察・聞き取り調査 3 資料を使った調査	◎	◎	◎			
			4 調査のまとめ 5 調査結果の発表	◎	◎	◎			
								備 考	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	社会	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会 地理、新しい社会 歴史	出版社名	東京書籍
------	-------------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第2章 日本の地域的特色と地域区分	1 地形から見た日本の特色	◎	◎	○	授業の概要 地理分野では日本について学習します。多面的な視点から地域的特色を把握し、地域間の結びつきや、国および地域が抱える課題について学習します。また、世界から見た日本のすがたについても学習します。 歴史分野では近世を学習します。日本の歴史を中心として、日本と諸外国との関係や、歴史的な出来事を広い視野に立って学習します。
			2 気候から見た日本の特色	◎	○	○	
			3 自然災害と防災・減災への取り組み	◎	◎	○	
			4 人口から見た日本の特色 5 資源・エネルギーから見た日本の特色	◎	◎	○	
			6 産業から見た日本の特色 7 交通・通信から見た日本の特色	◎	○	◎	
			中間考査(5/16～5/17)	◎	◎		
	5	第4章 近世の日本	1 中世ヨーロッパとイスラム世界 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパ世界の拡大 4 ヨーロッパ人との出会い	◎	○		
			1節 ヨーロッパ人との出会い全国統一	◎	○		
			2節 江戸幕府の成立と対外政策	◎	◎	○	
			3節 産業の発達と幕府政治の動き	◎	◎	○	
			1 農業や諸産業の発展 2 都市の繁栄と交通路の整備 3 幕府政治の安定と元禄文化	◎	◎	○	
			4 享保の改革と社会の変化 5 田沼意次の政治と寛政の改革 6 新しい学問と化政文化 7 外国船の出現と天保の改革	◎	◎	○	
7	第3章 日本の諸地域	1 九州地方をながめて 2 自然環境に適應する人々の工夫	◎	◎			
		3 自然の制約の克服と利用 4 持続可能な社会をつくる	◎	○	◎		
		期末考査3年(6/28～7/4) 期末考査1・2年(6/29～7/4)	◎	◎			
		1節 九州地方	◎	○	◎		
		2節 中国・四国地方	◎	○	◎		
		3節 近畿地方	◎	○	◎		
8	第5章 開国と近代日本の歩み	1 中国・四国地方をながめて 2 交通網の整備と人や物の移動の変化	◎	○	◎		
		3 交通網が支える産業とその変化 4 活用される交通・通信網	◎	◎	○		
		1 近畿地方をながめて 2 大都市圏の形成と都市の産業	◎	○	◎		
		3 ニュータウンの建設と都市の開発 4 変化する農村の暮らし	◎	◎	◎		
		4節 中部地方	◎	○	◎		
		3 特色ある中央高地の産業 4 特色ある北陸の産業	◎	◎	◎		
9	第5章 開国と近代日本の歩み	1 イギリスとアメリカの革命 2 フランス革命	◎	◎	○		
		3 ヨーロッパにおける国民意識の高まり 4 ロシアの拡大とアメリカの発展	◎	◎	○		
		5 産業革命と資本主義	◎	◎			
		1 欧米のアジア侵略 2 開国と不平等条約	◎	◎			
		3 開国後の政治と経済 4 江戸幕府の滅亡	◎	◎			
		5節 関東地方	◎	○	◎		
10	第5章 開国と近代日本の歩み	1 関東地方をながめて 2 世界と結び付く東京	◎	○	◎		
		3 東京を生活圏とする人々の暮らしと交通 4 関東地方の多様な産業	◎	◎	◎		
		期末考査3年(11/29～12/5) 期末考査1・2年(11/30～12/5)	◎	◎			
		6節 東北地方	◎	○	◎		
		1 東北地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	○	◎		
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎	◎		
11	第5章 開国と近代日本の歩み	1 北海道地方をながめて 2 自然の制約に適應する人々の工夫	◎	○	◎		
		3 自然の制約や社会の変化を乗り越える 4 自然の特色を生かした産業	◎	◎	◎		
		1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎		
		2 課題を調査する	◎		◎		
		3 要因を考察する	◎	◎			
		4 解決策を構想する	◎	◎	○		
12	第5章 開国と近代日本の歩み	1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	◎			
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎			
		1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	○	◎		
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎	◎		
		1 北海道地方をながめて 2 自然の制約に適應する人々の工夫	◎	○	◎		
		3 自然の制約や社会の変化を乗り越える 4 自然の特色を生かした産業	◎	◎	◎		
1	第4章 地域の在り方	1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎		
		2 課題を調査する	◎		◎		
		3 要因を考察する	◎	◎			
		4 解決策を構想する	◎	◎	○		
		1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	◎			
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎			
2	第4章 地域の在り方	1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎		
		2 課題を調査する	◎		◎		
		3 要因を考察する	◎	◎			
		4 解決策を構想する	◎	◎	○		
		1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	◎			
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎			
3	第4章 地域の在り方	1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎		
		2 課題を調査する	◎		◎		
		3 要因を考察する	◎	◎			
		4 解決策を構想する	◎	◎	○		
		1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	◎			
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎			
3	第4章 地域の在り方	1 身近な地域の課題を見つける	◎		◎		
		2 課題を調査する	◎		◎		
		3 要因を考察する	◎	◎			
		4 解決策を構想する	◎	◎	○		
		1 北海道地方をながめて 2 祭りや年中行事の伝統とその変化	◎	◎			
		3 伝統工芸品の生産・販売とその変化 4 過去の継承と未来に向けた社会づくり	◎	◎			

# 令和5年度 シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	社会	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	新しい社会歴史、中学社会公民的分野	出版社名	東京書籍、日本文教出版
------	-------------------	------	-------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	(歴史的分野)第5章 開国と近代日本の歩み	1 新政府の成立 2 明治維新の三大改革 3 富国強兵と文明開化 4 近代的な国際関係	◎	○	○	<p style="text-align: center;"><b>授 業 の 概 要</b></p> 歴史的分野では、近代、現代の日本の歴史を学びます。わが国の先人たちが、どのように苦勞して、今の豊かな日本をつくり上げたのかを様々な資料を参考にしながら、学習します。 明治維新から、日清日露の戦争による独立の維持、第一次世界大戦後の大国としての動き、大東亜戦争に至るまでの道のり、そして敗戦にいたるまでの歴史を流れの中から把握します。 公民的分野では、現代社会の問題点と自己のあり方について学びます。基本的人権や政治機構についての基本的事項を身に付けます。また、政治や経済、国際社会の基本的な学習から、身近なニュースと公民的分野の学習から学ぶ、対立と合意、効率と公正の考え方をを用いた学習まで、さまざまな資料を読み取りながら学習します。
		第3節 明治維新	5 国境と領土の確定 6 領土をめぐる問題の背景 7 自由民権運動の高まり 8 立憲制国家の成立	◎	○	○	
		第4節 近代産業の発展と近代文化の形成	1 欧米列強の侵略と条約改正 2 日清戦争 3 日露戦争 4 韓国と中国	○	◎	◎	
		第6章 二度の世界大戦と日本	5 産業革命の進展 6 近代文化の形成 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命	○	◎	○	
	5	第1節 第一次世界大戦と日本	3 国際協調の高まり 4 アジアの民族運動	○	○	◎	
		第2節 大正デモクラシーの時代	1 大正デモクラシーと政党内閣の成立 2 広がる社会運動と男子普通選挙	○	○	◎	
		中間考査(5/16～5/17)		◎	◎		
	6	第3節 世界恐慌と日本の中国侵略	3 新しい文化と生活 1 世界恐慌とブロック経済 2 欧米の情勢とファシズム 3 昭和恐慌と政党内閣の危機	◎	○	○	
		第4節 第二次世界大戦と日本	4 満州事変と軍部の台頭 5 日中戦争と戦時体制 1 第二次世界大戦の始まり 2 太平洋戦争の開始	○	○	◎	
		第7章 現代の日本と私たち	3 戦時下の人々 4 戦争の終結 1 占領下の日本 2 民主化と日本国憲法	○	○	◎	
		第1節 戦後日本の出発	1 冷戦の開始と植民地の解放 2 独立の回復と55年体制 3 緊張緩和と日本外交	◎	○	○	
	7	第2節 冷戦と日本の発展	4 日本の高度経済成長 5 マスメディアと現代の文化	○	○	◎	
期末考査3年(6/28～7/4)			◎	◎			
期末考査1・2年(6/29～7/4)			◎	◎			
第3節 新たな時代の日本と世界		1 冷戦後の国際社会 2 冷戦後の日本 3 持続可能な社会に向けて	○	○	◎		
二 学 期	8	(公民的分野)第1編 私たちと現代社会	1 少子高齢化の社会で生きる私たち 2 情報化で変わる社会と私たち 3 グローバル化する世界で生きる私たち 4 持続可能な社会と私たち	○	○	◎	<p style="text-align: center;"><b>学 習 の 到 達 目 標</b></p> ・明治政府がどのような国をつくろうとしていたのか、政策から説明することができる。 ・大日本帝国憲法の制定や民権運動を通じて日本の民主主義の発展について理解できる。 ・日清、日露戦争勃発から第一次世界大戦を経て、日本が国際的な地位を確立していった経緯を理解できる。 ・大東亜戦争にいたる経緯を理解できる。 ・民主主義の意義について理解できる。 ・基本的人権の大切さが理解できる。 ・三権分立と日本の政治機構の基本的関係について理解できる。 ・経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方について説明できる。 ・国家間の相互の主権の尊重と協力及び国際機構などについて理解できる。
		第1節 私たちが生きる現代社会の特色		○	○	◎	
	9	第2節 日本国憲法と基本的人権	1 人権思想の歩み 2 自由に生きる権利 3 等しく生きる権利 4 差別のない世界へ	◎	◎	○	
		第3節 日本の平和主義	5 人間らしい生活を営む権利 6 人権の保障を確保するために 7 社会の変化と人権保障(1) 8 社会の変化と人権保障(2)	◎	◎	○	
		第2節 現代社会の文化と私たち	1 現代社会における文化 2 日本の伝統文化の特徴と多様性 3 世界のなかの日本の文化	○	○	◎	
		第3節 現代社会の見方・考え方	1 きまりの意義 2 「対立」と「合意」 3 効率と公正 4 きまりを守る責任とその評価	○	◎	○	
	10	第1節 政治と民主主義	1 政治と民主主義 2 法に基づく政治と憲法 3 日本国憲法と基本原則 4 日本国憲法と国民主義	◎	○	○	
		第2節 日本国憲法と基本的人権	1 人権思想の歩み 2 自由に生きる権利 3 等しく生きる権利 4 差別のない世界へ	◎	◎	○	
		第3節 日本国憲法と基本的人権	5 人間らしい生活を営む権利 6 人権の保障を確保するために 7 社会の変化と人権保障(1) 8 社会の変化と人権保障(2)	◎	◎	○	
		第3節 日本の平和主義	9 国際的な人権の保障 10 公共の福祉と国民の義務	◎	○	○	
	11	中間考査(10/5～10/6)	1 日本国憲法の平和主義 2 日米安全保障条約と日本の国際貢献	◎	◎		
		第2章 民主主義と日本の政治	【チャレンジ公民】道路の拡張計画について考えよう	○	◎	○	
第1節 民主政治と政治参加		1 民主政治のしくみ 2 選挙の意義としくみ 3 国民と政治をつなぐ政党	◎	○	○		
第2節 国の政治のしくみ		4 政治参加と世論 1 国会の地位としくみ 2 国会の仕事 3 内閣のしくみと議院内閣制	◎	○	○		
12	第3節 暮らしを支える地方自治	4 行政権の拡大と国民の生活 5 法を守る裁判所 6 裁判のしくみと人権の尊重 7 私たちの司法と裁判員制度	◎	○	◎		
	第3編 私たちの生活と経済	8 三権分立と政治参加	○	○	◎		
	第1節 消費生活と経済のしくみ	1 私たちの暮らしと地方自治 2 地方公共団体のしくみ 3 地方自治と国の関係	○	◎	○		
	第1節 消費生活と経済のしくみ	4 地方自治と私たち 【チャレンジ公民】一票の格差の問題を考えよう -ディベート-	○	◎	○		
三 学 期	1	第2節 生産の場としての企業	1 経済のしくみ 2 経済活動の意義 3 私たちの消費生活 4 消費者の権利と自立を支える政府のはたらき	◎	○	○	<p style="text-align: center;"><b>評 価 の 観 点</b></p> 主体的に学習に取り組む態度 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
		第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み	5 ものの流れと情報の流れ 6 市場のしくみと価格の決め方	◎	○	○	
	2	期末考査3年(11/29～12/5)		◎	◎		
		期末考査1・2年(11/30～12/5)		◎	◎		
		第2節 生産の場としての企業	1 生産活動とそのしくみ 2 株式会社のしくみと企業の社会的責任 3 企業の競争と独占の問題	○	○	◎	
		第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み	4 グローバル化する経済と現代の企業 5 企業活動と景気の変動 6 働く意味と労働者を支えるしくみ	○	○	◎	
	3	冬季休業日(12/21～1/8)		◎	◎		
		第3節 金融のしくみとお金の価値	7 変化する雇用のかたち 8 女性の働く環境と高齢者雇用	○	◎	○	
		第4節 財政と国民の福祉	1 金融のしくみ 2 日本銀行と金融政策 3 金融のグローバル化と為替相場	○	○	◎	
		第4編 私たちと国際社会	1 財政のはたらき 2 国の収入を支える税と国債	◎	○	○	
	4	第1節 国家と国際社会	3 社会保障のしくみ 4 少子高齢社会における福祉の充実と財源 5 環境保全の担い手としての政府 【チャレンジ公民】社会保障のあり方について考えよう	○	◎	○	
		第1節 国家と国際社会	1 国際社会と持続可能性 2 国家と国際関係 3 日本の領土をめぐる問題	◎	○	○	
第1節 国家と国際社会		4 国際連合の目的とはたらき 5 グローバル化と地域統合 6 世界の様々な文化や宗教	○	○	◎		
第1節 国家と国際社会			◎	◎			
5	学年末考査3年(2/22～2/29)		◎	◎			
	学年末考査1・2年(2/26～2/29)		◎	◎			
	第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み	1 現代の戦争と平和 2 世界の軍縮と日本の役割 3 日本の平和主義と国際貢献	◎	○	○		
	第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み	4 発展途上国の現状と多様化する世界	◎	○	○		
6	第5編 私たちの課題	5 限りある資源とエネルギー 6 地球規模の環境問題と国際協力 7 持続可能な社会をめざして	○	○	◎		
	第5編 私たちの課題	【チャレンジ公民】地球温暖化に対する政策について考えよう	○	○	◎		
7	第1節 持続可能な社会をめざして	1 テーマ設定 2 資料収集と読み取り 3 考察と構想 4 まとめと評価	○	○	◎		
	第1節 持続可能な社会をめざして		◎	◎			

シ ラ バ ス  
令和5年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	4 年	類型	共通	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	----	-----	---	----

教科書名	高等学校 歴史総合	出版社名	第一学習社
------	-----------	------	-------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	第1部 歴史の扉	①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	○	○	◎	授業の概要  社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
		第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち	1 18世紀の東アジアの政治と国際秩序 2 18世紀の東アジアの経済と社会	◎	○		
		第1節 18世紀のアジアの繁栄	1 国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 2 農業社会から工業社会へー産業革命	◎	○		
		第2節 産業革命と市民革命	3 アメリカ独立革命 4 フランス革命	◎	◎	○	
	5	中間考査5年(5/9～5/12)	5 イギリスに挑戦したナポレオン 6 大西洋をこえて広がった革命	◎	◎	○	
		中間考査4年(5/16～5/19)		◎	◎	○	
		第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	1 イギリスの繁栄 2 後発国による「上かなの近代化」 3 ロシアの近代化と南下政策 4 アメリカ合衆国の膨張	◎	○		
6	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	1 オスマン帝国の衰退と西アジア 2 南アジアと東南アジアの植民地化 3 東アジアの動揺 4 東アジアの情勢と改革 5 明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 6 日本の立憲国家への道のり	◎	○			
	期末考査(6/28～7/4)		◎	◎	○		
7	第5節 帝国主義の発展	1 帝国主義の時代 2 列強の世界政策 3 日清戦争と中国分割	◎	○			
	夏季休業日(7/21～8/24)						
二 学 期	8	4 日露戦争とアジア 5 日本の工業化と社会運動の高揚 6 日本の帝国主義と東アジア	◎	◎	○	学習の到達目標  ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と その中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸 課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に 調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色 などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在との つながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多 角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視 野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効 果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい 社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする 態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解 を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史 に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切 さについての自覚などを深める。	
		第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 第一次世界大戦 2 ロシア革命とソ連の成立	◎	○		
	9	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	3 ヴェルサイユ＝ワシントン体制 4 アジア諸国の独立運動 5 東アジアの民族運動と日本 6 アメリカの大衆社会 7 大正デモクラシーと日本社会の変化	◎	○		
		中間考査(10/3～10/6)		◎	◎		○
	10	第2節 経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌 2 ファシズム・軍部の台頭 3 ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 4 日中戦争の開始と戦時体制下の日本 5 第二次世界大戦の開始 6 第二次世界大戦の終結	◎	◎		○
		第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成	1 国際連合と国際経済体制 2 冷戦の開始とアジアへの波及 3 敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 4 平和条約と日本の独立回復	◎	○		
	12	期末考査(11/29～12/5)		◎	◎		○
第3章 グローバル化と私たち		グローバル化への問い	○	○	◎		
冬季	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	1 アジア諸国の独立と中東戦争 2 アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭	◎	○			
	冬季休業日(12/21～1/8)						
三 学 期	1	3 核戦争の危機から核軍縮へ 4 西側諸国の多極化と日本の動向 5 日本の高度経済成長とアジアとの関係回復 6 米中の動揺とベトナム戦争	◎	○			
		第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界	1 石油危機とイスラーム復興 2 東南アジア・東アジアの経済成長	◎	○		
	学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎	○		
	3	3 冷戦の終結とソ連の解体 4 地域紛争の頻発とアメリカの動揺 5 グローバル化と地域統合の動き 6 情報通信技術の発展と環境問題への対応	◎	○			
		現代的な諸課題の形成と展望	「探究」活動に取り組んでみよう	○	○	◎	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	公民	科目	公共	学年	4 年	類型	共通	単位数	2 単位
----	----	----	----	----	-----	----	----	-----	------

教科書名	公共	出版社名	東京法令出版
------	----	------	--------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1編「公共の扉をひらくために」 第1章「公共的な空間をつくる私たち」	「公共」の見取り図 ①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	○	○	◎	授業の概要 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。	
		第2章「公共的な空間における人間としてのあり方・生き方」 第3章「公共的な空間における基本原理と日本国憲法」 中間考査4年(5/16～5/19)	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは ①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権	○	◎	○		
	5		③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義	◎	○	○		
		第2編「よりよい社会の形成に参画するために」 第1章「日本の政治機構と政治参加」	「政治」の見取り図 ①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判	◎	○	◎		
		期末考査(6/28～7/4)	⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加	◎	◎	○		
	夏季休業日(7/21～8/24)							
	二 学 期	8	第2章「経済のしくみ」	「経済」の見取り図 ①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国民所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧財政の課題 ⑨金融のしくみと働き ⑩中央銀行と金融の自由化	◎	○		◎
第3章「変化する日本経済」			①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済へ ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	◎	○	○		
9		第4章「豊かな生活の実現」	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題	◎	○	○		
中間考査(10/3～10/6)			◎	◎	○			
10		期末考査(11/29～12/5)		◎	◎	○		
11		第5章「国際政治のしくみと動向」	「国際」の見取り図 ①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会	◎	○	◎		
12		冬季休業日(12/21～1/8)						
三 学 期	1	第6章「国際経済のしくみと動向」	⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人種・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状 ①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済	◎	◎	○	評価の方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
		第7章「国際社会の現状と課題」	①地域統合の進展 ②南北問題 ③新興市場国 ④地球規模の諸課題	◎	○	○		
	2	学年末考査(2/22～2/29)		◎	◎	○		
	3	第3編「持続可能な社会をつくるために」	⑤地球環境問題 ⑥日本の役割 ①民主主義を考えよう ②日本の格差問題 ③科学技術の発展 ④外国人との共生	◎	◎	○		
						備考		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	高等学校 新地理総合 高等地図帳	出版社名	帝国書院 二宮書店
------	---------------------	------	--------------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1部地図でとらえる現代世界	1 地球上の位置と時差	○	○	◎	<p style="text-align: center;"><b>授 業 の 概 要</b></p> 社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。	
		第1章地図と地理情報システム	2 地図の役割と種類		◎	○		
		第2章結びつきを深める現代世界	1 現代世界の国家と領域	◎	○	○		
		2 グローバル化する世界	◎	◎	○			
	5	中間考査5年(5/9～5/12)			◎	◎		○
		中間考査4年(5/16～5/19)			◎	◎		○
	6	第2部国際理解と国際協力	序説 生活文化の多様性と国際理解		○	○		◎
		第1章 生活文化の多様性と国際理解	1 世界の地形と人々の生活	◎	◎	○		
		2 世界の気候と人々の生活	◎	◎	○			
		◎	◎	○				
	7	期末考査(6/28～7/4)			◎	◎		○
			3 世界の言語・宗教と人々の生活文化	◎	○	◎		
二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)					<p style="text-align: center;"><b>学 習 の 到 達 目 標</b></p> ・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 ・地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付ける。 ・地理に関わる諸事象の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとする。	
		4 歴史的背景と人々の生活	◎	○	◎			
	9	5 世界の産業と人々の生活	◎	○	◎			
				◎	○	◎		
	10	中間考査(10/3～10/6)			◎	◎		○
		第2章地球的課題と国際協力	1 複雑に絡み合う地球的課題    2 地球環境問題	◎	○	◎		
			3 資源エネルギー問題	◎	◎	○		
			4 人口問題	◎	○	◎		
			5 食糧問題	○	○	◎		
			6 都市居住問題	◎	○	◎		
	11	期末考査(11/29～12/5)			◎	◎		○
		第3部持続可能な地域づくりと私たち	1 日本の自然環境	◎	○	◎		
三 学 期	1	第1章自然災害と防災		◎	○	◎	<p style="text-align: center;"><b>評 価 の 観 点</b></p> 知識・技能 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地域的な特色、地球的課題への取組などに関して理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 <p style="text-align: center;"><b>思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</b></p> 地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したりする力を身に付けている。 <p style="text-align: center;"><b>主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</b></p> 地理に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとしている。 <p style="text-align: center;"><b>評 価 方 法</b></p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
		冬季休業日(12/21～1/8)						
	2	2 地震・津波と防災    3 火山災害と防災	◎	◎	○			
		4 気象災害と防災	◎	◎	○			
		5 自然災害への備え	○	◎	◎			
		学年末考査(2/22～2/29)			◎	◎		○
	3	第2章生活圏の調査と地域の展望	1 生活圏の調査と地域の展望	◎	○	◎		
				◎	○	◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年	5 年	類型	理科系	単位数	2	単位
----	------	----	------	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	高等学校 新地理総合 高等地図帳	出版社名	帝国書院 二宮書店
------	---------------------	------	--------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	知	思	主		
一 学 期	4	第1部地図でとらえる現代世界	1 地球上の位置と時差	○	○	◎	<p>授業の概要</p> <p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。</p> <p>・地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付ける。</p> <p>・地理に関わる諸事象の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとする。</p> <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や地域的な特色、地球的課題への取組などに関して理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したりする力を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>地理に関する諸事象について、国家及び社会の形成者として、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとしている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。</p> <p>備 考</p>	
		第1章地図と地理情報システム	2 地図の役割と種類	○	◎	○		
		第2章結びつきを深める現代世界	1 現代世界の国家と領域	◎	○	○		
		2 グローバル化する世界	◎	◎	○			
	5	中間考査5年(5/9～5/12)		◎	◎	○		
		中間考査4年(5/16～5/19)		◎	◎	○		
	6	第2部国際理解と国際協力	序説 生活文化の多様性と国際理解	○	○	◎		
		第1章 生活文化の多様性と国際理解	1 世界の地形と人々の生活	◎	◎	○		
	7	期末考査(6/28～7/4)	2 世界の気候と人々の生活	◎	◎	○		
			3 世界の言語・宗教と人々の生活文化	◎	○	◎		
	二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)					
9		4 歴史的背景と人々の生活	◎	○	◎			
			5 世界の産業と人々の生活	◎	○	◎		
10		中間考査(10/3～10/6)		◎	◎	○		
		第2章地球的課題と国際協力	1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題	◎	○	◎		
11		3 資源エネルギー問題	◎	◎	○			
			4 人口問題	◎	○	◎		
12		5 食糧問題	◎	○	◎			
			6 都市居住問題	◎	○	◎		
冬季		12	期末考査(11/29～12/5)		◎	◎	○	
				第3部持続可能な地域づくりと私たち	1 日本の自然環境	◎	○	◎
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/8)						
	2	2 地震・津波と防災 3 火山災害と防災	◎	◎	○			
			4 気象災害と防災	◎	◎	○		
	3	5 自然災害への備え	◎	◎	○			
			学年末考査(2/22～2/29)	◎	◎	○		
	3	第2章生活圏の調査と地域の展望	1 生活圏の調査と地域の展望	◎	◎	◎		
				◎	◎	◎		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説日本史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	◎	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「歴史総合」で学んだことを基に、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりをふまえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことを目指す科目です。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>
			2 農耕社会の成立	◎	◎	◎	
	5	第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開	◎	◎	◎	
			中間考査5年(5/9～5/12)	◎	◎	◎	
			中間考査4年(5/16～5/19)	◎	◎	◎	
	6	第3章 律令国家の形成	2 飛鳥の朝廷	◎	◎	◎	
			1 律令国家への道	◎	◎	◎	
7	期末考査(6/28～7/4)	2 平城京の時代	◎	◎	◎		
		3 律令国家の文化	◎	◎	◎		
二 学 期	8	夏季休業日(7/21～8/24)	4 律令国家の変容	◎	◎	◎	
			◎	◎	◎		
	9	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	◎	◎	◎	
			2 国風文化	◎	◎	◎	
			3 地方政治の展開と武士	◎	◎	◎	
	10	第5章 院政と武士の躍進	1 院政のはじまり	◎	◎	◎	
			2 院政と平氏政権	◎	◎	◎	
	11	中間考査(10/3～10/6)	3 鎌倉幕府の成立	◎	◎	◎	
			2 武士の社会	◎	◎	◎	
			3 モンゴル襲来と幕府の衰退	◎	◎	◎	
4 鎌倉文化			◎	◎	◎		
12	期末考査(11/29～12/5)	1 室町幕府の成立	◎	◎	◎		
		◎	◎	◎			
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/8)	2 幕府の衰退と庶民の台頭	◎	◎	◎	
			◎	◎	◎		
	2	第7章 武家社会の成長	3 室町文化	◎	◎	◎	
◎			◎	◎			
3	学年末考査(2/22～2/29)	4 戦国大名の登場	◎	◎	◎		
		◎	◎	◎			

令和5年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2 単位
----	------	----	-------	----	-----	----	-----	-----	------

教科書名	詳説世界史	出版社名	山川出版社
------	-------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	第1章 文明の成立と古代文明の特質	1 文明の誕生	◎	○	○	授 業 の 概 要 「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。
			2 古代オリエント文明とその周辺	○	◎	○	
			3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明	◎	○	○	
			中間考査5年(5/9～5/12)	◎	○	○	
	5	中間考査4年(5/16～5/19)	5 南北アメリカ文明	◎	○	○	
			第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	◎	○	○	
	6	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	◎	○	○	
2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容			○	◎	○		
4 東アジア文化圏の形成			◎	○	○		
7	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 仏教の成立と南アジアの統一国家	◎	○	○	学 習 の 到 達 目 標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
		2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	○	◎	○		
		3 東南アジア世界の形成と展開	◎	○	○		
夏 季	期末考査(6/28～7/4)		◎	○			
	夏季休業日(7/21～8/24)						
二 学 期	8	第5章 イスラム教の成立とヨーロッパ世界の形成	2 ギリシア人の都市国家	○	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
			3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	○	◎	○	
			1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立	◎	○	○	
			2 ヨーロッパ世界の形成	○	◎	○	
	9	第6章 イスラム教の伝播と西アジアの動向	1 イスラーム教の諸地域への伝播	◎	○	○	
			2 西アジアの動向	◎	○	○	
	10	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開	◎	○	○	
			2 東ヨーロッパ世界の展開	○	◎	○	
			3 西ヨーロッパ世界の変容	○	◎	○	
			4 西ヨーロッパの中世文化	◎	○	○	
11	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋	◎	○	○		
		2 モンゴルの大帝国	◎	○	○		
12	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆	◎	○	○		
		2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○	◎	○		
冬 季	冬季休業日(12/21～1/8)						
三 学 期	1	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝	◎	○	○	評 価 方 法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。
			2 ムガル帝国の興隆	◎	○	○	
	2	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	3 清代の中国と隣接諸地域	○	◎	○	
			1 ルネサンス	○	◎	○	
3	学年末考査(2/22～2/29)	2 宗教改革	○	◎	○		
		3 主権国家体制の成立	◎	○	○		
3	学年末考査(2/22～2/29)	4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	◎	○	○		
		5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	◎	○	○		
							備 考

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(4・5年生用)

教科	公民	科目	倫理	学年	5 年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	----	----	-----	----	-----	-----	---	----

教科書名	倫理	出版社名	東京書籍
------	----	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	第1章 青年期の課題と自己形成	1節 青年期の意義	○	◎	◎	<p><b>授業の概要</b></p> <p>青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について、先人の思想を参考に理解を深めます。日本の思想、西洋の思想をもとに、生きる主体としての自己の確立を促します。それとともに、民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考えさせ、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。</p> <p><b>学習の到達目標</b></p> <p>・青年期における自己形成の課題について、他者とともに生きる自己の在り方生き方について考えることができる。                      ・先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、自己の人格形成に努める実践的態度を育成することができる。                      ・日本の伝統的な人間観、自然観、宗教観などを、自己との関わりの中で理解し、日本人としての在り方生き方の自覚を深めることができる。                      ・現代の倫理的課題や生徒の直面する課題について、先哲の考え方を学びつつ、主体的に課題を解決していくことができる。                      ・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、平和で民主的な社会の実現に寄与することができる。</p> <p><b>評価の観点</b></p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>古今東西の幅広い知的蓄積を通して、倫理にかかわる現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から人間としての在り方生き方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために、倫理に関する概念や理論などを活用して、多面的・多角的に考察して思索を深め、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>現代社会に生きる人間としての在り方生き方に関わる事象や課題を主体的に解決しようとし、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、より深い思索を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。</p> <p><b>評価方法</b></p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「討論・発表」、「史資料の読み取り」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」、「学習の振り返り」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p><b>備考</b></p>	
			2節 青年期の課題と生き方	○	◎	◎		
		第2章 人間としての自覚	1節 人間とは何か	○	◎	◎		
			2節 ギリシャの思想	◎	◎	◎		
	5	中間考査5年(5/9～5/12)	3節 キリスト教	◎	◎	◎		
				4節 イスラーム	◎	◎		◎
		中間考査4年(5/16～5/19)	5節 仏教	◎	◎	◎		
			6節 中国の思想	◎	◎	◎		
	7	期末考査(6/28～7/4)	7節 芸術と人間	◎	◎	◎		
			◎	◎	◎			
	二 学 期	8	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚	1節 日本人の精神風土	○	◎		◎
				2節 仏教と日本人の思想形成	◎	◎		◎
3節 儒教と日本人の思想形成				◎	◎	◎		
4節 国学の思想				○	◎	◎		
9		中間考査(10/3～10/6)	5節 庶民の思想	◎	◎	◎		
			6節 西洋思想と日本人の近代化	◎	◎	◎		
		第4章 現代を生きる人間の倫理	7節 国際社会に生きる日本人の自覚	◎	◎	◎		
			1節 人間の尊厳の根拠を求めて	◎	◎	◎		
10		期末考査(11/29～12/5)	2節 民主社会と自由を求めて	◎	◎	◎		
				◎	◎	◎		
		冬季休業日(12/21～1/8)	3節 社会変革の倫理を求めて	◎	◎	◎		
				◎	◎	◎		
三 学 期	1	4節 新たな人間像を求めて	◎	◎	◎			
			◎	◎	◎			
			◎	◎	◎			
			◎	◎	◎			
	2	5節 自然や科学技術と人間とのかかわり	○	◎	◎			
			6節 民主社会の成熟のために	○	◎	◎		
3	学年末考査(2/22～2/29)	1節 生命 2節 家族	◎	◎	◎			
			◎	◎	◎			
3	第5章 現代の課題を考える	3節 地域社会 4節 情報社会	○	◎	◎			
		5節 文化と宗教 6節 環境 7節 国際平和と人類の福祉	○	◎	◎			



シ ラ バ ス  
令和5年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	地理歴史	科目	日本史B	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	4 単位
----	------	----	------	----	-----	----	----------	-----	------

教科書名	詳説 日本史 改訂版	出版社名	山川出版社
------	------------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第9章 近代国家の成立	1. 開国と幕末の動乱	○	○	○	授業の概要 日本の原始・古代から江戸時代までの歴史を詳しく学習し、我が国の歴史的過程と生活・文化の特色について理解し、民主的な国家社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養います。	
			2. 明治維新と富国強兵	○	○	○		
	3. 立憲国家の成立と日清戦争	○	○	○				
	4. 日露戦争と国際関係	○	○	○				
	5. 近代産業の発展	○	○	○				
	5	中間考査(5/16～5/19)		○	○	○		◎
	6	第10章 二つの世界大戦とアジア	1. 第一次世界大戦と日本 " 2. ワシントン体制 "	○	○	○		○
7	期末考査(6/28～7/4)	3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代 4. 恐慌の時代	○	○	○	◎		
			○	○	○	◎		
			○	◎	○	○		
夏季	8	夏季休業日(7/21～8/24)						
二 学 期	9	第11章 占領下の日本	5. 軍部の台頭 "	○	○	○	評価の観点 関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	
			6. 第二次世界大戦 "	○	○	○		
	10	中間考査(10/3～10/6)		○	○	○		◎
	11	第12章 高度成長の時代	1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ	○	○	○		思考・判断・表現 我が国の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、表現している。
	12	第13章 激動する世界と日本	1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺 " 歴史へのアプローチ「歴史の論述」	○	○	○		資料活用 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けている。
	12	期末考査(11/29～12/5)		○	○	○		◎
	12	問題演習 "		○	○	○		◎
冬季	1	冬季休業日(12/21～1/8)						
三 学 期	1	"	○	○	○	◎	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用」の4つの観点で評価します。具体的には、おとに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。	
			○	○	○	◎		
			○	○	○	◎		
	2	家庭学習 " " "	○	○	○	◎		
3	3	備考					5年次から継続して学習します。	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	地理歴史	科目	地理B	学年	6 年	類型	グローバル理科系	単位数	4	単位
----	------	----	-----	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	新詳 地理B	出版社名	帝国書院
------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	3章 人口、村落・都市	1 世界の人口	○	◎	○	○	<p>授 業 の 概 要</p> <p>世界の諸地域の地理的事象について環境条件に関連づけて理解するとともに、グローバル化する現代社会において、異文化の理解や尊重の必要性、近隣諸国との交流の在り方を理解し、それらの知識を身に付けます。</p> <p>現代世界について、地図化して捉える基本的な知識を身に付けます。</p> <p>地球的な課題を理解し、その解決にあたっては地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考えます。特に、地理的事象からグローバルなスケールで課題を設定し追究し、民族の共生へ向けての課題について理解するとともに、多文化共生に着目した具体的な課題を見いだし追究し、視点や方法を一般化できるような力を養います。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・世界の諸地域の地理的事象について環境条件に関連づけて理解するとともに、異文化を尊重する態度を身に付ける。</p> <p>・地図で捉える現代世界について関心を高め、地図化に関する技能を身に付ける。</p> <p>・南北問題やさまざまな都市・居住問題について関心を高め、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考える。</p> <p>・世界の民族・領土問題に関する地理的事象からグローバルなスケールで課題を設定し、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを理解する。</p> <p>・民族の共生へ向けての課題について、資料を収集し、情報を活用する技能を身に付ける。</p> <p>評 価 の 観 点</p> <p>関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>人々の生活の営みに関心を持ち、私たちの身近にある生活課題と結びつけながら、自己と自然や社会・文化など、私たちを取り巻く環境との関わりを探究しようとしている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>さまざまな地理的事象を貫く法則性や特殊性を考察し、それらを自然環境や社会環境との関係において多面的・多角的に捉え、その考察の過程や結果を適切に表現している。</p> <p>資料活用技能</p> <p>地理的事象に関する諸資料を収集し、それらを多角的・多面的に分析・判断し、合理的に判断を下し、効果的に活用している。</p> <p>知 識 ・ 理 解</p> <p>我が国及び世界の国々や人々の生活・文化の地域的特色について、法則性や特殊性を把握するとともに、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>
			2 人口問題	○	◎	○	○	
	5	4章 生活文化、民族・宗教	3 村落と都市	○	◎	○	○	
			4 都市・居住問題	○	◎	○	○	
	6	4章 生活文化、民族・宗教	1 生活文化	◎	○	○	○	
			2 民族と宗教	◎	○	○	○	
	7	3章 現代世界の国家	3 現代世界の国家	○	○	◎	○	
4 民族・領土問題			○	◎	○	○		
8	3章 現代世界の国家	3 現代世界の国家	○	◎	○	○		
		4 民族・領土問題	○	◎	○	○		
二 学 期	9	3章 現代世界の諸地域	1 地誌の考察方法	○	◎	○	○	
			2 東アジア	◎	○	○	○	
	10	3章 現代世界の諸地域	3 東南アジア	◎	○	○	○	
			4 南アジア	◎	○	○	○	
	11	3章 現代世界の諸地域	5 西アジアと中央アジア	◎	○	○	○	
			6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	◎	○	○	○	
	12	3章 現代世界の諸地域	7 ヨーロッパ	◎	○	○	○	
8 ロシア			◎	○	○	○		
1	3章 現代世界の諸地域	9 アングロアメリカ	◎	○	○	○		
		10 ラテンアメリカ	◎	○	○	○		
2	3章 現代世界の諸地域	11 オセアニア	◎	○	○	○		
		12 演習	○	◎	○	○		
3	3章 現代世界の諸地域	12 演習	○	◎	○	○		
		13 家庭学習	○	◎	○	○		
冬 季	1	3章 現代世界の諸地域	13 家庭学習	○	◎	○	○	
			14 家庭学習	○	◎	○	○	
三 学 期	2	3章 現代世界の諸地域	14 家庭学習	○	◎	○	○	
			15 家庭学習	○	◎	○	○	
3	3章 現代世界の諸地域	15 家庭学習	○	◎	○	○		
		16 家庭学習	○	◎	○	○		

令和5年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(6年生用)

教科	公民	科目	政治・経済	学年	6 年	類型	グローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-------	----	-----	----	----------	-----	---	----

教科書名	高等学校 改訂版 政治・経済	出版社名	第一学習社
------	----------------	------	-------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	1 政治と法の機能 2 人権保障と法の支配	○	◎		○	授 業 の 概 要  民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考え、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。	
			3 議会制民主主義と世界の政治体制	○	◎		○		
			4 日本国憲法の基本原則 5 平和主義と自衛隊	○	◎		○		
			6 基本的人権の保障と新しい人権	○	◎		○		
	5	中間考査(5/16～5/19)	7 国会の組織と立法	○	◎		○		
			8 内閣の機構と行政	○	◎		○		
	6		9 裁判所の機能と司法制度	○	◎		○		
			10 地方自治制度と住民の権利	○	◎		○		
			11 政党政治と選挙制度	○	◎	○	○		
			12 民主政治における世論の役割	○	◎		○		
	7	第2章 現代の国際政治と日本	1 国際社会と国際法 2 国際連合の組織と役割	○	◎		○		学 習 の 到 達 目 標  広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
			3 国際政治の動向 4 国際紛争と難民問題	○	◎		○		
8	夏季休業日(7/21～8/24)								
二 学 期	9	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみ	5 軍備管理と軍縮 6 日本の外交と国際平和への役割	○	◎		○	評 価 の 観 点  関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度  現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。	
			1 経済社会の発展 2 経済主体と経済活動	○	◎		○		
			3 市場経済の機能と限界	○	◎		○		
			4 経済成長と景気変動	○	◎		○		
	10	中間考査(10/3～10/6)	5 物価の動き	○	◎		○		
			6 金融のしくみとはたらき	○	◎		○		
	11		7 財政のしくみとはたらき 8 日本経済の歩み	○	◎		○		
			9 中小企業の地位と役割 10 農業の現状と課題	○	◎		○		
			11 消費者問題 12 高度情報社会の進展と課題	○	◎	○	○		
			13 労働問題 14 社会保障制度の充実	○	◎		○		
	12	第2章 国民経済と国際経済	15 環境保全と資源・エネルギー問題	○	◎		○		資料活用 の 技 能  現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
			1 国際経済のしくみ 2 国際協調と国際経済機関の役割	○	◎		○		
12	期末考査(11/29～12/5)	3 地域的経済統合 4 グローバル化する経済	○	◎		○	知 識 ・ 理 解  現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。		
		5 南北問題と日本の役割	○	◎		○			
冬季	冬季休業日(12/21～1/8)								
三 学 期	1	第3編 現代社会の諸課題	演習	○	◎	○	○	評 価 方 法  学習の状況は、上記の「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用 の 技 能」「知識・理解」の4つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。	
			家庭学習	○	◎	○	○		
			○	◎		○			
2			○	◎		○	備 考		
3			○	◎		○			